

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	医療総合学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	運動学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	前期	教室名	405
担 当 教 員	荒木 将平	実務経験と その関連資格	理学療法士として病院で勤務経験あり			
《授業科目における学習内容》						
目標①:運動器の障害を理解するために必要な、人体の関節運動を理解できる。 目標②:各関節の正常運動について、骨・関節・靱帯・筋・神経の働きを含めたメカニズムを説明できる。						
《成績評価の方法と基準》						
1、定期試験または実技試験;70% 2、出席評価点:20% 3、平常点(授業態度・レポート):10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
公認スポーツ指導者養成テキスト						
《授業外における学習方法》						
その単元の内容の解剖分野を復習しておくこと。 前回の授業内容を事前に確認した上で、授業に臨むこと。						
《履修に当たっての留意点》						
本科目で履修する内容について、学問的側面のみならず、現場での具体的な活用法を常に考察しながら理解を深める努力をすること。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動学の概要が理解できる。		教科書	当該範囲の事前学習
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション、運動学の基礎、関節包内運動			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	単関節運動と多関節運動の違いとパワー伝達のメカニズムを理解できる		教科書	前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習
		各コマにおける授業予定	単関節・多関節運動が理解できる			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる		教科書	前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習
		各コマにおける授業予定	関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の法則			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩甲上腕リズムについて学び、その構造を理解し、説明できるようになる		教科書	前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習
		各コマにおける授業予定	肩甲上腕リズム			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	肘関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる		教科書	前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習
		各コマにおける授業予定	肘関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	手のアーチ等について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	教科書	前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習
		各コマにおける授業予定	手のアーチ、手根管、テノデシスアクション		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	手のアーチ等について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	教科書	前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習
		各コマにおける授業予定	手のアーチ、手根管、テノデシスアクション、と関節の相互作用		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	股関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	教科書	前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習
		各コマにおける授業予定	関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の法則		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	股関節のアライメントについて学び、その構造を理解し、説明できるようになる	教科書	前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習
		各コマにおける授業予定	股関節のアライメント		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	教科書	前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習
		各コマにおける授業予定	関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の法則		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節の筋について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	教科書	前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習
		各コマにおける授業予定	筋と関節の相互作用		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	足関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	教科書	前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習
		各コマにおける授業予定	関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の法則		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋腱複合体の弾性要素と弾性エネルギーが利用できる運動様式を知る	教科書	前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習
		各コマにおける授業予定	筋と腱の弾性エネルギー		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	着地衝撃とその緩和法を理解する	教科書	前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習
		各コマにおける授業予定	着地衝撃とその緩和法		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	投動作と打動作の共通点、運動と流体力を学ぶ	教科書	前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習
		各コマにおける授業予定	基本的動作の力学的特徴と流体力		